



余湖 龍二 議員

町民の声を
メロン生産に
応援しよう!

問 メロン生産への振興策は

町長 支援策の模索を今後も続ける

問 訓子府メロンは「くんねっぶ」と名の付く自慢の特産品である。そのメロンは平成10年には5万6938ケースあった集荷量が今年は9845ケースと落ち込んでいる。生産者への支援に際し町民の意見を聞き、考える時ではないか。

答 現状としてメロンの作付面積の減少に歯止めがかからず、一方で毎年訓子府メロンを心待ちにしている町内外の方々がいるのも事実である。

行政として作物に対する支援および振興策を考える上で、まずは生産組織・農業協同組

合の意見を聞くことが最優先で、振興会役員会にも伺ったがそれを望む声もあまり聞かれず、施策の具現化には至っていない。

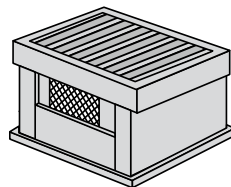
問 町民の想いとは別にメロンがなくなってしまうのは困る。今ある物を維持して頑張れるように、それが町民の望むことではないかと思う。きちんと町として町民の意見を聞くことは大事ではないか。

答 振興会には若い生産者もいる、このような人の腰を折らないように支援をやっていきたい。

議員の言う「今が大変なんだ」に対して今すぐに行政として「分かったやろう」という答弁はできないと言っている。もし、やるんだったらどうしても駄目だったら私の不信心の可決をしてくださいと前回も言った。



くんねっぶメロン



現に議員の人たちだつて生産の実態を知っているから、そのような意見としてまとまっていってきかないと思う。

問 今年度の具体的な振興策は。

答 10月のメロン振興会役員会に職員が伺い今後の生産者数の減少に関する対策について意見交換を実施した。

その中で令和2年度までの花粉交配用蜂箱への助成は大変助かったので継続してほしいとの意見が出された。意見交換の意見を持

ち帰り協議を行った。以前講じた施策と同じ内容を上げることにはならないので、令和4年度にメロン振興のための予算要求には至っていない。

問 私が行った生産者へのアンケートの返答の中に振興施策として、以前行った内容やハウスの自動巻き上げ機補助・価格保証などの要望が多々あったが、何らかの支援が必要ではないか。

答 メロン生産組織から継続してやってほしい

と意見があれば、やることはやぶさかではない。本当に必要ならやるべきだ。



余湖議員の一般質問を視聴できます